



# 清風通信

令和2年10月号(No.196)神無月  
税理士 関 清 二

## 日本酒の日!

月	火	水	木	金	土	日
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1



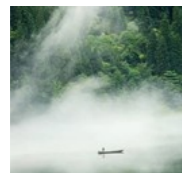
不如帰(秘めた意思)

【10月の税務】 ○国税 ☆地方税 ( )期限  
○税務署長から特別農業所得者への令和2年分予定納税の通知(15日まで)  
☆個人住民税第3期分の納付

【税界ニュース】 税理士があまり伝えない税情報  
08/21 総務省、「徴収猶予の特例」の適用状況を公表  
令2.4~6月分 【許可件数】81,925件 【税額】956億6500万円

【税界放浪記】 つぶやき税理士  
●若いころには気づかず、ある程度の歳になって気づくことが多い…①景色のわずかな移り変わり②人情の様変わり③心からの感謝④父母への思い⑤その他諸々。その意味で年を取ることは悪いことではない。人間一寸先は闇、万事塞翁が馬…とはいえ、平凡な毎日の中にある幸せ、平凡な今こそが一番幸せと感じることが年を取るということではないだろうか。  
●若いころは…ひたすら一点を見つめているので、周りの景色が見えない。まして、わずかな移り変わりには気づかない。自分に優しい人が良い人で、厳しい人は苦手な煙たい。しかし、今思えば…厳しかった人ほどいつも傍にいて優しくかった。  
●若いころは…毎日が必死で、その分達成感も大きい…自分の努力と成果に酔い痺れる。それが変な自信となり鼻につき、孤独で嫌味な人間になる。失敗すると極端に落ち込んでなかなか立ち直れない。思う存分やらしてくれた上司や支えてくれた同僚部下の存在に気が付かず、「感謝の気持ち」もなかった。  
●若いころは…居てくれて当たり前前の両親、亡くなって初めて知る親の恩とはよく言ったものである。今更どうすることも出来ない、優しい言葉一つ掛けなかった。今頃仏壇や墓に手を合わせても遅い。  
●若いころは…確かに懸命に仕事をしたつもりだが、今思えば仕事に託けて好きなことも結構していた。付き合いといっても嫌いな相手との付き合いではなく、都合の良い付き合いだった。大きな声では言えないが今は家内に罪滅ぼしの毎日。  
●若いころの自分を恥、詫び、償いながら…この世の全てに心から感謝し税界を放浪できる、これ以上の幸せはない。

【税理士業務最前線】 新卒税理士の貌  
●ひと昔前と比べると、昨今の国税OB事情は至って厳しい…コロナの影響もあって今年退職して登録した者(新卒税理士)は気の毒である。私は平成7年に中途退職して、それなりに地を這いずり何とか生き残った強運の持主?だが、それだけに新卒者の心細さはよく分かる。なんとか自立できるよう手助けしたいとついお節介を焼いてしまうが…成功した試しがない。  
●新卒のなかでも、①定年組と延長組②中途退職者は大分違うし、「ワケ有」か「ワケ無」でも大きく違う。よほど国税組織や人脈に精通していないと、食わせ者は見分けられない。要は、現職当時の「仕事ぶり」や「人柄」、「公私の分別」「責任感」で決まる…昔はまっすぐな性格が、いつの間にかねじ曲がってしまった者もいる。同期に追い越されたり、同じ部署に長年幽閉された者、現場経験や管理者経験がないまま退職した者、上司に踏みつけにされ冷飯を食わされたと思込んでいる者等々…見分けるコツは、育ててもらった国税組織に感謝の念があるかどうか…この一点に尽きよう!  
●特に、現職当時「納税義務者の目線」で仕事をしてこなかった者は、まったく使いものにならない。新卒者は、今まで一方的に見下してきた「納税義務者」から、年金をもらえるまでの暇つぶしや小遣い稼ぎ?土壇場でネを上げる変なプライド人間?と値踏みされ、見下される!耐えられる?まずは「鏡に向かって自分の貌をじっくりと見る」、すると?見える?「物欲しそうな下心」「何となく油断ならない胡散臭さ」「ただの張子の虎」…見えなければ見えるまで見るべし!



【四字熟語の達人】 「雲」 これであなかも四字熟語の達人!  
【雲心月性うんしんげつせい】 名誉や利益を求めず、清らかな心をもっていること[無欲恬淡]  
【雲霞之交うんかのまじわり】 俗世を超えた交友《管鮑之交》理解し合っている親密な友情  
【雲烟飛動うんえんひどう】 筆勢が躍動して力強いこと(書画や文章の筆致)  
【雲烟過眼うんえんかがん】 物事に執着しない、無欲で淡泊なこと[行雲流水]  
【雲翻雨覆うんぱんうふく】 人の心や世情がすぐ変わってしまう喩え[翻雲覆雨]

※QRコードをスマホで読み込んでもらうと関事務所のHPが見られます。

【明治瓦版⑩】 明治41年(1908) ※我楽多市(別冊あり)  
【出来事】西太后(79)死す! 第一回「ブラジル移民」(笠戸丸791人)! 日本初「目黒撮影所」誕生! 日本初トラック運送会社「帝国運輸自動車」創業! 「三池港」開港! 「草平(27)・らいてう(22)」心中未遂! 日本初「スケート大会」(諏訪湖一周の下駄スケート)! 「味の素」製造開始! ロンドン五輪開幕! 大阪市電開業! 三省堂「日本百科大辞典」!  
【この年新発売】キャビネ版乾板使用カメラ「サクラノープル」(現コニカ)、地下足袋の原形「甲掛足袋」、英製自転車「ダズリー・ペダースン」(内装3段変速)、ブリキ玩具「市電まわり」(北原照久コレクション)  
【ベストセラー】高野聖(泉鏡花)、花袋集(田山花袋)、あめりか物語(永井荷風)  
【訃報】三井財閥「岩崎弥之助(57)」、津田仙(70)・現青学創立に参画、津田梅子の父! 大津事件で司法の独立を守る・児島惟謙(71)! 五稜郭占領「榎本武揚(72)」、国木田独步(36)、米東洋美術史学者・フェノロサ(55)



【京都案内】10月の京都…[京の祭と行事365日より]  
京都…毎日どこかで祭や行事がありますので、どうぞお越しやす! (赤字は中止)  
しっかりと京都の秋を満喫【コロナで中止も、要確認】



【収穫祭】ずいき祭(北野天満宮)、栗御供祭(八大神社)、抜穂祭(伏見大社)

【陶器市】清水焼の郷まつり(山科清水焼団地一帯)

【秋のおどり】温習会(祇園甲部井上流)、みずゑ会(宮川町)、水明会(先斗町)、寿会(上七軒)、

【その他のみどころ】

⑥北政所茶会(高台寺)、紫式部祭(平野神社)⑧八瀬赦免地踊(秋元神社)⑩⑭春日祭(西院春日神社)⑭人形供養祭(宝鏡寺)⑯宵宮祭(由岐神社)⑲船岡大祭(建勲神社)⑲⑳普度勝会(萬福寺)㉑二十五菩薩お練り供養法会(即成院)、齋宮行列(野宮神社)、笠懸神事(上賀茂神社)㉒鞍馬の火祭(由岐神社)㉓余香祭(北野天満宮)



【四季彩彩】 京の山々に抱かれて… ( )は標高m  
三方を山に囲まれた京都…山々を見て育ち、山々に抱かれて育った、京都人には不思議な感覚がある。

「北山」…愛宕山(924)から雲ヶ畑、鞍馬・貴船、雲母坂を越えて八瀬・大原まで。  
「東山」…比叡山(848)から如意ヶ嶽(472)稲荷山(233)まで約12\*、なだらかである。  
「西山」…高雄の朝日峯(688)から嵐山、松尾山(223)、ポンポン山(679)、天王山(270)に至る。☆ちなみに「嵐山」という山はありません。  
愛宕さんの「千日詣」、北山杉、高雄の紅葉狩り、清滝の清流、鞍馬の牛若丸と天狗伝説、貴船の床(とこ)、八瀬のケーブル・お化け屋敷、大原女、柴漬け、哲学の道、清水寺、泉涌寺、お稲荷さん、嵐山の花見、保津川下り、大枝の筍、花の寺、山崎のサントリー…目を瞑ると隣の奥に四季折々の景色が鮮明に浮かんでくる。景色だけではない、人も時間も…少しも色褪せることがない!



【人に話したくなるあぶり】 日本酒の日  
10月1日は「日本酒の日」…新米酒造りの季節である。一説には1万とも2万ともいわれる日本酒の銘柄数…とてもではないが数えきれないし、例え数えたところで飲みきれない。酒を旨いという人もいれば苦いという人もいる。ただ、マズイという酒飲みはいない…ということは? 旨いのだろう。嫌われるのは「管(くだ)を巻く酒飲み」…管は糸車の軸のことで、回すと「ぶ～ん、ぶ～ん」と何とも言えない単調な音がする➡繰返し同じこという酒飲みということになったらしい。かといって無口な酒飲みも不気味、大声で話すのも傍迷惑…爛は温めの「人肌」がグイグイ…といいながらも下戸! 男闘気や酔い、人に酔い、船に酔う、仕事にも酔う…飲まなくても年中酔っ払っている。



【事務所だより】 お月見 ※すべて無断転載

☆今月号の裏面➡我楽多市(明治41年)  
☆今月号の別冊➡①家賃支援給付金 一定賃料徴収の社宅も対象  
②可部国税庁長官就任インタビュー

